



(奈良)

大乗院は興福寺の門跡寺院として隆盛を極めたが、廃仏毀釈以後
 廃絶した。今回の発掘は大乗院庭園の整備のため、第二六〇次調査
 として、園池南岸部分に
 東・中央・西の三つの調査
 区を設けて汀線の確認など
 を目的として行なったもの
 である。木簡は中央調査区
 の、近代の造成土・攪乱土
 より出土した。なお西調査
 区からは近代の絵馬風の板
 一点も出土している。

奈良・大乘院庭園

だいじょういんていえん

- 1 所在地 奈良市高畑町
- 2 調査期間 第二六〇次調査 一九九五年(平7)七月～九月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 町田 章
- 5 遺跡の種類 庭園
- 6 遺跡の年代 古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

8 木簡の釈文・内容

(1) 「大和奈良 東京牛込
 片原町 津久戸□町

。田中秀善様 二条家。

十二月二十七日□□□賀

173×62×6 011

〔配達料先カ〕
 □□□□□〔朱印〕

左右及び下端は削って調整、上端は折った上で荒く調整。東京牛
 込津久戸□町(現、東京都新宿区)の二条家から奈良片原町(現、奈
 良市高畑町)の田中秀善へ宛てた荷物の荷札である。上下両端に穿
 孔。印記は長方形で三・三cm×〇・九cm。

片原町は、庭園の南側を東西方向に走る道路の北側の街衢である。
 荷物到着後、裏手の園池に廃棄したのであろう。同町は明治一六年
 (一八八三)に高畑村に合併されたので、高畑村の表記が見えない
 木簡の廃棄時期はそれ以前の明治時代前半とも考えられるが、合併
 後も通称地名として残っているので、明確な時期は特定し得ない。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『一九九五年度平城宮跡発掘調査部発掘調
 査概報』(一九九六年)

(山下信一郎)